



けやきの会便り

特定非営利活動法人 KHJ 全国ひきこもり家族会連合会 埼玉県支部

NPO法人 KHJ 埼玉・群馬「けやきの会家族会」会報 No153 (2017年7月2発行)

家族と家族をつなぐ「コミュニケーション」ペーパー <http://www.khj-keyaki.com/>

前回(6月4日)の月例会では・・・

[第一部] 総会 H28 年度活動・収支報告 H29 年度活動方針・予算案が賛成多数により承認されました。

[第二部] ガイダンス ・全国大会 in 東京のお知らせ 10/28(土)29(日)

・居場所「ココ・カラ すまいる」のご案内 6/19午後2時から3時半

・NHK 厚生文化事業団制作の DVD・H28 年全国大会 in 山形の DVD の貸し出し(田口さんまで)

[第三部] 「元当事者の体験談」 きずな工房通所の青年のお話&グループでフリートーク

[第四部] H28 年度けやきの会アンケート調査結果の報告

★「元当事者の体験談」 きずな工房通所の青年のお話&グループでフリートーク

〇きずな工房通所の青年のお話・・・30 歳代、40 歳代、50 歳代の青年 3 人ときずな工房・ひより工房の職員が輪になりミーティング形式で行われました。他に 2 人の青年が同席し計 8 人が輪になりました。

<きずな工房に通うきっかけはなんですか？>

・「母親の死や父親の発病」「きずな工房の方の電話応答や通所時の対応が温かかった」「けやきの会さくら草クラブで知った顔の人がいて安心した」「けやきの会の会報を見てこれなら出来るかもと思った」等

<通う前と通ってからの生活の変化はありますか？><健康面の変化はありますか？>

・「生活が不規則だったがリズムができた」「以前は朝 5 時に寝るという生活だったが昼夜逆転が治った」「自分が社会の一員であるという自覚がでた」「食事を規則正しく食べるようになった」「体力が向上した」等

<通う前と通ってからの気持ちの変化はどうですか？>

・「自分の中で芯が出来た」「他人とふれあうことにより普通の生活に戻れる感じがする」「世の中と繋がっているという安心感がある。鬱が改善し意欲が湧いてきた」「前向きになれた」「親のすねをかじっているという後ろめたい気持ちが少し減った」という反面「社会で求められるスピードについていかなければというプレッシャーが強くなった。まだ自信が持てない」「甘いものが好きになった」等

<以前より外出の機会は増えましたか？>

・「通勤に耐えられる体力がついた」「自然に体力がついて趣味のテニスに行くようになった」「一人で街へ行かれるようになった」「自分で病院や手続きのため市役所に行ける」「作業の帰りに店に立寄るようになった」

<コミュニケーションは以前より向上しましたか？>

・「席が近い人と話せるため多少向上した」「緊張し苦手だがスタッフの方の気配りでよくなり目を合わせられるようになった」「これを言ったらどう思われるだろうとってしまうこともあるが向上した」

★そのほかく希望する職業や将来の夢もお話してくれました。今回話してくれた彼らのように一歩踏み出すことが出来れば、私達の子供も支援の道が広がるという希望を持つことができました。また彼らの課題に体力はついたが精神面に不安が残っているとのこと。それでも社会参加への強い思いがあるという印象を持ちました。長時間にわたり真剣に話してくだっただけに本当にありがとうございました。ず〜っと応援していますよ!!

予告 8月の月例会は8月6日(日) 午後1時から受付 「ワッツコムザ 5階(地図3ページ)

8月は家族相談士の高橋晋先生に「こだわり・わだかまりから抜け出すには」のお話をいただきます。高橋晋先生は金曜学習会でおなじみです。ご自身もひきこもりに近い経験をされた中で心理を学んだことから経験に裏打ちされたお話を噛みくだいた内容でお話してくださるので、私達はいつもなるほどと納得がいきます。当事者の目線を大切にしながら家族としての接し方、心構えを具体的に示してくれます。やわらかくやさしい語り口も聴く人を癒してくれます。

電話相談 月・水 9時～11時半
無料 通話料のみ利用者負担
048-651-7353 事務局
080-3176-6674 (田口)

全国大会 in 東京 10/28(土)29(日)

全国のKHJ支部が一同に会します。
けやきの会の11月月例会はこの全国大会に
振替となります。皆様お集りください。

New! ひきこもり最前線 個別 CRAFT (Community Reinforcement and Family Training)

このプログラムは CRAFT 認知行動療法の個別版。国のガイドラインに登場するもので、ひきこもり対応の最前線です。『機能分析』、『会話練習』、『ホームワーク』を組みこんで親ごさんに問題解決の技法を分かりやすく具体的に学んでもらうためのものです。ひきこもり～コミュニケーションの回復～望ましい行動を増やす～信頼関係の回復～援助の申し出～医療機関や支援機関へつなげる、という流れでテーマ毎に月1回計9回のプログラムに沿って進めます。多くの会員の方に実践していただき、その結果、変化がみられました。『各家庭が臨床現場』、日常生活の中で小さな刺激を加えることが大切。この刺激・反応の連鎖を積み重ねていきます。停滞期を脱する機会になるかもしれません。個別 CRAFT プログラムのご利用を希望の方はお申込みください。

田口(Meyers 先生の CRAFT ワークショップ認定 KHJ 認定ピアサポーター)

各種 個別相談を行っています お気軽にご連絡ください

*個別相談 *就労ステップ相談 *CRAFT (家族のための認知行動療法 上記参照) *親亡きあとのマネープラン相談(キャッシュフロー作成、生命保険信託の紹介などお手伝いします) (KHJ認定ピアサポーター・けやき相談員が対応 ◆個人情報を守ります)

New! 訪問サポート

訪問サポートをご希望の方は
下記の田口(事務局)へご連絡
ください

個別相談のうえ訪問します
訪問無料

★年会費 H29 年度分の納入をお願いします

★会員の皆さまにはいつも年会費の納入にご協力頂きお礼申し上げます。H29年度分の年会費の納入期限は9/30迄です。(年会費は会報の作成、印刷、切手代、会場費等に充てさせていただきます)

★過去退会された方の名簿の再登録もできますので希望される方やご不明な点は下記の田口へご連絡ください。納入方法は3通りあります。①H29年6月同封の郵便振替票をご使用 ②月例会受付にてその場で納入 ③郵便局に設置してある郵便振替票に郵便振替記号番号(下記)を記入しお支払い。 ☆=郵便振替記号 001006 番号 504684 特定非営利活動法人 KHJ 埼玉けやきの会 家族会 ●記号、番号を印字してある振替票の再発行をご希望の方は、4ページの最下部に記載の佐川宛にご連絡ください。お送りさせていただきます。

年会費は「けやきの会便り・旅立ち」の作成、印刷、郵送、会場費などの必要経費です。会員の皆さまのご理解とご協力お願い致します。

★新入会員への会報お届けは事務手続きの関係でひと月遅れる場合がありますが了承をお願いします。

●お近くの KHJ 支部の連絡先.....

- ◎ NPO 法人東東京「楽の会」リーラ 市川乙充 (火・木 13:00～17:00) ☎3-5944-5730
- ◎ 西東京「朝の会」 須賀啓二 FAX 03-3883-2358 ◎山梨県「桃の会」 篠崎博子 ☎554-66-4073
- ◎ 神奈川「虹の会」 安田賢二 ☎80-2107-1171 ◎横浜ばらの会 鈴木恵美子 090-5764-3366
- ◎ 栃木県 NPO 法人とちぎ「ベリー会」☎28-627-6200 齊藤三枝子 ◎町田家族会 氏家和子 ☎ 042-810-3553(上野)
- ◎ 群馬「はるかぜの会」 板西玲子 ☎90-5325-3701 榎本 ☎80-3727-8726
- ◎ 千葉県 NPO 法人「なの花会」 藤江幹子 ☎70-2191-4888 ◎茨城県「ひばりの会」荒井俊 ☎47-364-7332

KHJ「けやきの会」事務局 さいたま市北区盆栽町 190-3 (入会金 2,000 円)

※ 初めてご参加の方は 月例会、学習会、個別相談会会場で「けやきの会」入会手続きができます。

また事前に田口代表へお電話にてお問い合わせもできます。048-651-7353 留守の場合は 080-3176-6674

★次ページに総合学習会プログラム・当事者居場所・BPD 相談会・家族教室その他を掲載 どうぞご覧ください

6月金曜学習会 『気持ちに寄り添って聴く』 家族相談士 高橋 晋先生

1. 親の焦り・不安と気持ちのすれちがい 親は子の心配をしてそれを親自身の愛情と捉えがちですが、子からすると親の心配を押しつけられていると感じます。精神的虐待のような感覚といえるかも知れません。親が自分の心配にとらわれすぎないで、子にとってはどんな風かと気持ちの余裕と視点の広さを身につけることが、子の気持ちに寄り添うときの土台になります。
2. 本人が親に求めるもの 引きこもっている子は、プレッシャーや圧迫感、苦しさから楽になりたいと無意識に思っています。安心感を伝えられる雰囲気望んでいます。今の親ならわかってくれそうと思えば苦しさをわかって欲しくて過去のことを話し出します。そして、動けなくてもどんな状態でも今の自分を受け入れて欲しいと願っています。少しエネルギーが回復し始めても、孤立無援だと不安が強くなりますが、支えてもらっている実感があるとチャレンジしやすくなるものです。
3. からだ・しぐさ・態度から感じる事 親がわかってくれなさそう、寄り添ってくれなさそう、叱咤激励されそうになると、子は話せません。感覚が敏感な子なので、焦らずに間をもって聴くことが大切。
4. 相手に寄り添う言葉 「そう」「そうねえ・・・」「そうだったんだ・・・」など考えて返すのではなくて体にしみつくようにしておくといいです。子が自分の感情を言葉でつなげていけるように向き合いたいです。※二人組で《我が子の経過と気持ち》をテーマに聴き役・話し役の時間がありました。相手の話に頷き相槌を打つより、分析やアドバイスになっていたことに気づき、共感し寄り添う意味をずしんと感じました。

| | | | | |
|-------------|-------|--|------------|------------|
| 7/2日) | 13:00 | しゃべらない、人と会おうとしない、全く外出しようとしていない 子どもの心に届く会話の工夫 | 田口 ゆりえ 代表 | 岩槻WATSU 5F |
| 7/21(金) | 13:30 | 対人緊張・対人恐怖 | 高橋 晋 家族相談士 | 岩槻WATSU 2F |
| 8/6日) | 13:00 | こだわり・わだかまりから抜け出すには | 高橋 晋 家族相談士 | 岩槻WATSU 5F |
| 8月金曜学習会はお休み | | 8月金曜学習会はお休み | | |
| 9/3日) | 13:00 | 生活困窮者自立支援制度ってなにを支援してくれるの？ | 埼玉県職員 服部孝 | 岩槻WATSU 5F |
| 9/8(金) | 13:30 | 怒りは大切な感情 | 高橋 晋 家族相談士 | 岩槻WATSU 2F |
| 10/1(日) | 13:00 | 日本の貧困とアジアの貧困 など | 石川 清 朝霞ルーム | 岩槻WATSU 5F |
| 10/1(金) | 13:30 | 医療と制度を有効に活用する | 高橋 晋 家族相談士 | 岩槻WATSU 2F |

会場・時間・・・上記プログラムで最新情報をご確認ください ※プログラムは家族当事者限定

費用…日曜日は月例会参加費 1,000 円を含む

金曜日は 1,500 円(一家族) 青年は無料

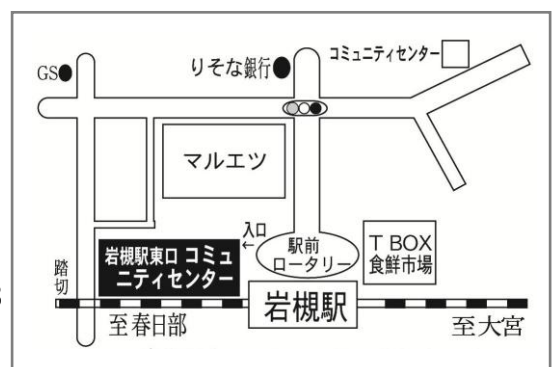
会場…東武野田線 岩槻駅 下車 東口 徒歩すぐ

岩槻駅東口コミュニティセンター 通称ワッツコムザ

東口駅前ロータリーに面した一番左側のビルです

(ワッツコムザの電話 048-758-6500)

お問い合わせ…田口 080-3176-6674 048-651-7353



当事者居場所 さくら草クラブ

🌱 **New!** (7/17(月)ココ・カラ すまいる)

こころとからだを笑顔にしよう!!

軽い体操と楽しいゲームで体と心をほぐしませんか。気が向いたときだけでも参加できます。仲間に会ってみよーかな〜と思い始めた人はお気軽にどうぞ! 親ごさんの参加も歓迎ですよ!



🌱 (8/6(日) 仕事体験・居場所)

居場所を兼ねた仕事体験です。月例会日の午前10:30 から 1 時間、会報の封入作業を、午後は月例会の受付補助と封筒の切手貼りを行っています。ご本人の体調に合わせて、午前のみ、午後のみでも参加いただけます。まだ働く自信がないと思っている青年に最適です。最初は親ごさんと同伴いただく事もできます。

◇青年たちへ。相談タイムを設けています (会員無料)

◇おやごさんのみの参加やお手伝い、親子ペアの参加も歓迎

◇50才代の男性女性もちろん歓迎



お勧め図書
皆様からの
情報をお待
ちしています

「不登校・ひきこもりが終わるとき」
丸山康彦
「ドキュメント 長期ひきこもりの現場から」 石川清 (けやきの会 朝霞ルーム主宰) 洋泉社

☆埼玉・群馬 会員用の「ひきこもりを生き抜く」のハンドブック紹介

生涯に渡るひきこもり支援の情報を集約。埼玉県、群馬県東部の会員ご家族とご本人のためのハンドブックです。公的支援情報を中心に載せていますから安心してご利用いただけます。保存用に購入しお役立てください。月例会場 1300 円 / 送付ご希望の方 1500 円 (郵便払込票を同封してお送りします)
◆送付ご希望の方は葉書または C メールにて下記要領でお申込みください
〒番号、ご住所、お名前、「ハンドブックの送付をお願いします」と明記

◇葉書で申し込む方・・・〒340-0111 幸手市北 3-17-5 佐川俊郎宛

◇携帯電話 C メールで申し込む方・・・080-1016-8180 佐川俊郎

◇携帯電話 C メールで申し込む方・・・080-1016-8180 佐川俊郎

New 就労移行支援 『きずな工房』のご案内

★事務所の近くに就労移行支援事業所「きずな工房」が開所しました。機械部品の組み立て作業を行い賃金が出ます。(椅子に座っての軽作業)就労へ半歩進めたい方は体力回復と就労訓練にお役立てください。2年間継続利用できます。(1h/1日利用可)利用者負担金なし。交通費は自己負担。市内、市外の方。精神、発達、知的、難病の方対象。男女65才未満の方OK★医療機関に受診されていない方はご相談ください。書類提出で対象となります。★見学、相談、体験、ご希望の方は下記にご連絡を!!★現在けやきの会元当事者が8名(男性7名女性1名)利用しています。

<< 『きずな工房』 就労移行支援事業所 >>

さいたま市北区盆栽町 386 (盆栽踏切、セブンイレブンそば)
(アクセス) ・東武野田線大宮公園駅から徒歩 6 分 ・宇都宮線土呂駅から徒歩 8 分 ・大宮駅が高崎線宮原駅からバス 12、13 分
きずな工房 ☎ 048-788-2533

または田口 ☎048-651-7353 080-3176-6674

New 就労継続 B 型 『ひより工房』のご案内

★『きずな工房の姉妹施設』。就労が難しい人や就労移行支援はハードルが高い人に適した施設です。本人の体調に合わせて無理なく長く(年齢制限なし)通える憩いの居場所。仲間やスタッフさんと軽作業(内職など)を行います。★自信がいたら「きずな工房」へ移ることもできます。★現在けやきの会から1名利用。★下見、見学、相談はお気軽に連絡を!! ★無料 さいたま市北区本郷町 166-1
048-780-2917(ひより工房)または田口へご連絡ください

CVN 家族教室 朝霞ルーム (併財市民センター)

全体会◆今月は 7/17(月・祝)14:00~16:30 予約不要 1000 円

ミニゼミ「ひきこもりとアニメやネット依存に見られる幼さ」

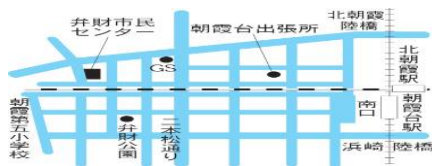
個別相談は石川へ要予約 3000 円/時 併財市民センター

(訪問サポート・南国への旅費・滞在・サポート 等有料)

訪問サポートは個別相談のうえ 青年居場所は無料 18:30~

◆お問い合わせ…石川(留守電にメッセージを!)

(070-5655-8376)または hangin83.jp@ybb.ne.jp



☆外部機関から依頼にて田口代表が講演を行いました☆

- H24年3月 三郷市障害福祉相談支援センター「誰にでもおこりうるひきこもり/全体像/回復の段階/段階に応じた対応」
- H24年4月 KHJ 宮崎 楠の会 「誰にでもおこりうるひきこもり/親子コトなど」
- H25年6月 前橋市保健所 「誰にでもおこりうるひきこもり/5大基本など」
- H26年2月 高崎市保健所 「誰にでもおこりうるひきこもり/肯定語、挨拶、小遣いについて など」
- H26年6月 前橋市保健所 「言葉の持つ力」
- H27年4月 KHJ 群馬はるかぜの会 「ひきこもりの正しい理解のために」
- H27年9月 家族療法学会 「家族のリカバリートーク」
- H28年1月 高崎市障害福祉課「家庭は治療の現場/本音を言える関係をめざして」
- H28年12月 群馬県こころの健康センター 「しゃべらない、人と会おうとしない、全く外出しない 子どものこころに届く会話の工夫/ワーク」

KHJ 埼玉けやきの会は埼玉県とさいたま市ひきこもり対策協議会の構成委員です
☆本年度も埼玉県及びさいたま市ひきこもり対策連絡協議会に出席しました☆

- 平成29年1月22日 さいたま市こころの健康センターにて
さいたま市ひきこもり対策連絡協議会にて同委員の田口代表が出席し活動の報告を行いました
- 平成29年2月7日 埼玉県庁の講堂にて
埼玉県ひきこもり対策連絡協議会にて田口代表と佐川理事が出席し活動の報告を行いました

- ① 昨年秋に内閣府は15歳~39歳のひきこもりが全国で54万人に上るという調査結果を公表しました。若者支援を目的とした調査のために40歳以上は含まれずひきこもり全体像が反映されていないという指摘が多く聞かれました。
- ② その一方で、同じころKHJは厚労省の助成を受けて40歳以上で経過10年以上のケースについて全国調査を実施しました。
- ③ 全国をブロックに分けてさらに7、8人のグループでケースを持ちより、相談機関の利用や就労経験の有無、生活の様子など本人を取り巻く状況を時系列で詳細に開示しグループ内で改善点などあれば検討し探るというものでした。
- ④ ひきこもりの多くは長期化し、親亡きあと経済的に困窮する恐れがあるため、国の施策づくりに役立ててもらうことが目的でした。
- ⑤ 当会も理事2人がこの企画に参加しケースを提供しました。
- ⑥ ひきこもりはこれまで、不登校や大学での挫折など思春期や若者の問題だと見られてきました。しかし、近年増えつつあるのは、なんとか就職できても度重なる職場内での人間関係のつまづきで自信喪失し、その結果ひきこもるケースも目立つようになりました。思春期や若者だけの問題ではなくなりました。
- ⑦ 開設から1年を経過した自治体の生活困窮者の窓口で最も多かったのは40歳以上のひきこもりであったという報告もあります。

⑧ さらに「80・50問題」というケースも浮上してきました。介護職員が家庭を訪問したらそこには高年齢のひきこもりの子どもがいたというケースです。子どもは働いていなくても当面親の年金で生きていきけます。しかし、親が介護が必要な80歳代になり子どもが50歳代になると双方の生活が破綻しかねなくなります。

⑨ ひきこもりは個人の問題でなく、社会が生み出した社会病理現象という観点からとらえる事が自然であり当然国レベルの施策をこうじる必要があります。今回のKHJの「大人のひきこもり初調査」が有効に国策に反映されることを願っています。

「大人のひきこもり」初調査

40歳以上支援途絶える傾向

40歳以上の「ひきこもり」に関して民間団体が行った初の実態調査で、ひきこもりが長く続いている間に行政などの支援が途絶えたり、生活時間が昼夜逆転したりしている傾向が明らかになった。

内閣府は昨年9月、15〜39歳のひきこもりが約54万人に上るとの推計結果を公表した。増加しているとされる「大人のひきこもり」の実態は不明だった。「KHJ全国ひきこもり家族会連合会」（東京）が厚生労働省の助成を受け、同月以降、40歳以上の61人について家族らへの聞き取りを実施。今月22日、名古屋市内で中間報告を行った。

それによると、ひきこもりの平均期間は22年に及び、一度は行政や病院の支援を受けたのに、その後途絶えていたケースが半数に上った。ひきこもりの間に見られた行動は、昼夜逆転（49人）や家庭内暴力（15人）などが多かった。同連合会による別の調査では、ひきこもりの生活困窮者の自治体窓口への相談は40歳代が最も多かったという。

読売 1/23 (朝刊)

NO.2【KHJによる長期ひきこもりを初調査】

(前月の続き)

「長期高齢化したひきこもり者とその
家族への効果的な支援及び長期高齢化
に至るプロセス調査・研究」

講演 (中間報告)(概要)

(平成 28 年度厚労省社会福祉推進事業助成)

愛知教育大学 川北稔 准教授

2017 年 1 月 22 日

この度、全国自治体の生活困窮者自立支援制度窓口と KHJ 全国ひきこもり家族会連合会の 2 つを対象として大々的にひきこもりの実態が調査されました。前回の<NO1 ひきこもり長期化高齢化>に続き、今回は川北先生による上記表題の報告内容のポイントをまとめました。
調査研究報告発表者 愛知教育大学准教授 川北 稔 2017 年 1 月 22 日
厚労省社会福祉推進事業助成

■・・・調査対象:自治体の生活困窮者の自立相談支援窓口・・・■

全国の生活困窮者の自立相談支援窓口

の 6 分の 1 にあたる 215 窓口にアンケート調査紙を送付、150 通の回答を得た。その結果

- 1)40 代以上の割合が最も多く 4 割から 5 割を占める。
- 2)全体の人口動態では「未婚の子と高齢の親との同居」が増え、非正規雇用などにより経済的に脆弱な子世代と、高齢の親との間で「共倒れ」が生じる危険性が高まっている。
- 3)ひきこもりの捉えなおしの必要性。思春期青年期問題という従来の捉え方でなくなり、ひきこもりのきっかけは 40 才以降にも多い。
- 4)自立相談支援の窓口には「80・50 問題」というように高齢化した親と子の組み合わせによる相談が多発。介護や最低限の生活維持などニーズが複合化している。自身や家族もひきこもりという認識が薄い。
- 5)相談に訪れる人は父母が多く、40 才以上では兄弟姉妹が増えてくる。介護支援の地域包括支援センター、民生委員など他機関からの紹介もみられ相談のルートは多岐にわたった。
- 6)本人、家族の課題に挙げられたのは「人間関係・コミュニケーション」「就職活動・仕事の定着」の他、「精神的な疾病・障害」に問題があることが挙げられた。
- 7)生活相談支援窓口を訪れる以前に相談した窓口は、「生活保護担当課、ハローワーク、保健所、精神保健福祉センター」など。
- 8)しかし、ひきこもり支援に関連が高い「ひきこもり地域支援センター」との連携割合は、6 パーセントにとどまる。このことをどう捉えるかを精査する必要があるのではないか。
- 9)40 才以上は全年齢に比較して、高齢者支援機関や窓口、税に関する行政窓口を介しての相談が多く見られた。
- 10)今後実施する必要性を感じている内容として、本人の居場所、家族会、家族教室、ピアサポートが多く挙げられたのは、大変意外である。

KHJ のノウハウを共有していく必要がある。

- 11)自治体の自立相談支援窓口で困難に感じることに挙げられた項目は、「本人が相談の場に現れない」「本人に精神の問題がある」「使える制度や資源が少ない」など多岐にわたる。他に「本人に問

題意識が薄い」「支援を拒む」「家族自身が本人への接触を拒む」「やがて家族もあきらめる」「窓口でもアプローチの方法が分らない」「就労先や就労訓練など社会資源が少なすぎる」「教育と福祉の連携不足」「ひきこもり関連の実績がない」

など課題が山積みである。

12)そもそも、ひきこもり問題の解決に王道はないが、窓口の対応いかんでその後の家族の本人への向き合い方や一家族の将来まで左右されかねない。家族が悲痛な思いで勇気をふりしぼって相談に訪れたことを窓口は重く受け止めてもらいたい。支援スキルの向上を図ってもらうには長年実績を積んできた KHJ 家族会のスキルを共有することは有効である。

■…調査対象:KHJ 全国ひきこもり家族会連合会…■

全国 6 ブロックから 77 事例が集まる(1 ブロック平均 12.8 例)参加支部は 35 支部(1 支部あたり平均 2.2 事例)男性 52 事例、女性 9 事例。平均 45.3 才。60 才以上の 1 例を含む。

以下の検討は 40 才以上の事例に限る。

- 1) 過去の行動として、「昼夜逆転」が最も多く「自室閉じこもり」「家族を拒否」が次に続き、「器物破壊」「家庭内暴力」の行動もみられた。
- 2) 診断を受けているのは 30 事例。比較的多いのは統合失調症(8 事例)対人恐怖(7 事例)発達障害(7 事例)
- 3) これまでの相談先は、病院(39 事例) 保健所(23 事例) 民間のカウンセリング(20 事例)精神保健福祉センター(19 事例)NPO(18 事例)など。
- 4) 就労の状況は、「経験あり」43 事例。正社員 17、アルバイト 23。就労開始の平均 20,7 才。就労の終了平均 27,3 才。

中身は多様(継続期間は数日、数か月単位から数年単位まで)

ひきこもり開始年齢以降に就労があるのは 11 例。新聞配達などのアルバイト、母の紹介によるアルバイト、母も把握していない短期就労など。

- 5) 現在社会参加の状況「就労、就学、ボランティアなど」があるのは 13 事例。内訳「就労中」が 5、「就労支援に参加している」が 3、「ボランティア」4、「友人と会話や遊び」3。

「就労」は障害者雇用、家族会支部のフリースペースを経て介護施設勤務、支部会員が職親となって就労の例など。「就労支援」(福祉的就労)参加の例。支部の障害者福祉の丁寧な紹介。「ボランティア」や「友人との交流」。家族の後押しによる居場所参加など。

旅立ち 83 号 平成 29 年 1 月 15 日発行

【内閣府調査に対する緊急提言】KHJ 本部 共同代表

概略 ひきこもりを「40 才未満」に拘泥する一因が「子ども若者育成支援推進法」を用いてきたことにあるのは周知のところですが現実を反映しないどころか社会的排除をもたらす結果を生み「改善した」と強弁したことは問題の解決に対して逆効果です。69 万人から 54 万人に減ったとする解釈は根拠のない非現実感を伴い、数値と評価は支援者と家族の意欲を大きく削いでいます。世帯全体の課題を把握するための包括的相談体制と多機関の協働が課題といえます。現場感覚のある KHJ ピアサポーター認定の本人、家族、支援者といった人々を積極的に活用していただく事を要望します。親の高齢化で待ったなしの切実な実態、ひきこもりという複数世帯に渡る苦しみがかつての経済繁栄を支えた日本の家族を不幸な形で荒廃させて崩壊させているのが現状です。KHJ はこのような対応に強く異議を申し立てます。(全文は旅立ち 83 号 1 ページ)

注・・KHJ(家族・ひきこもり・ジャパン)全国唯一のひきこもり家族会連合会